

1 明治十四年出版佐藤英白訳「華氏電 氣療法」と A.M.Hamilton の原書に ついて

渡部幹夫・筒井淳治

順天堂大学医療看護学部

電気現象を医学に用いる試みの歴史は古い。現在の医学の中に占める電気の重要性には論を待たないが、電気を疾病の直接的治療に用いた試みとその後の発展と現在の状況は明確とはいえない。日本の近代化において、西洋医学を取り入れる過程での電気療法導入には手術や検査に使われる電気器械の導入とは別な歴史がある。古くは平賀源内の完成したエレキテルや佐久間象山の作になり、妻女のコレラを治療したといわれる電気治療器がある。当時のヨーロッパにおいては一種の娯楽、怪しい治療道具として流行したようである。わが国でも明治以降、各種の電気治療器が販売されたと考えられる。電気治療の効果や原理などが不明

なままに広く世界的に使用されたと思われる器物も少なくない。一八七三年に New York State Hospital の Allan McLane Hamilton が「Clinical Electro-Therapeutics, Medical and Surgical」を出版した。その本は明治十四年（一八八一年）に、駿河の医師佐藤英白により「華氏電気療法」として訳述出版されている。今回 Hamilton の原本と佐藤英白の訳述本に触れ、その内容を比較することができた。佐藤英白の訳述本には、順天堂佐藤進の序と、佐藤英白の例言としての自序が加わっている。訳述はほぼ原本に忠実と思われるが、医学術語および電気物理術語・用語の訳出について現在との違いがあると思われる。また、図譜の数の不一致がある。その比較を含めて明治初期の医療の一側面を研究したので報告する。

Hamilton 本は 12Chapter よりなり佐藤本も同数の篇立てになっている。Hamilton の Preface が訳出されていないことを除くと Hamilton の篇立てと、佐藤本の篇立ては同じであるが、佐藤の目次には章立ての違いがあり佐藤の理解の問題かと考えられる。佐藤進の序で

は「然我邦用之者猶未多」の文が見られ、明治十四年にはそれほど多くの使用はなかったようにも思われる。佐藤英白の例言でも本邦の従来の使用は摩擦、感電の二電気のみにしてその後平流電気の使用が起り、焼灼電気の使用は軌近のことなりとしている。佐藤英白は電気による治療についてその効害についての専門書がなきことを憂い米国より簡単な電気療法書として Hamilton 書を購求した。佐藤英白は順天堂の門に短期間入り佐藤進の外科手術において電気焼灼法を目の当たりにして本書の全訳出を決心したと述べている。Galvanization を平流電気療法、Faradization を感傳電気療法、Galvano-Causty を電気焼灼法と和訳している。本書には電気生理学の篇は存在するが、いわゆる電気学の詳述はない。ほほすべての領域にわたる疾患の治療法と器械が掲載されており臨床家のハンドブックとして編まれたものと考えられる。また「原書中説ク所ト雖モ我国ニ於イテ必ズヤ益ナカラント認メル者ハ之ヲ省略セリ」としている。Hamilton 本の図譜は五四(一四欠)であるのに対し、佐藤本は四七四である。省

略されている六四うち四四は、細密な神経解剖図、一図は感電電気の器械、一図は Intra-Uterine Galvanic Pessaries であり、電気療法としての図が省かれているのはこの婦人病電気療法のみであった。

一方、当時の医療器械に関する和書に、すでに電器治療器が掲載されているが、どの程度使用がされたかは不明である。佐藤英白の「華氏電気療法」を元に当時の電気療法について考察を加える。

本研究は文部科学省科学研究費・特定領域 A (2)「江戸のモノづくり」研究の一部として行った。